

国際言語文化研究科 全学向け授業案内

2006年度全学向け「外国語特別研修コース」及び 「セミナー」について

国際言語文化研究科全学向け授業は「外国語特別研修コース」及び「セミナー」からなっています。「外国語特別研修コース」はいわゆる演習を主体とした少人数による外国語授業、「セミナー」は外国語の学修を通して言語文化の知識を養い、異文化理解を深めることを目指す授業です。皆さんの積極的な受講を期待しています。

I. 授業科目（授業時間割表及び授業要覧は7ページ以降に掲載）

外国語特別研修コース

科 目		開講期間		科 目		開講期間	
		前期	後期			前期	後期
英 語	Level 2 a	○	—	フランス語	Level 1 a	○	—
	Level 2 b	—	○	ロシア語	Level 1 b	—	○
	Level 3 a	○	—	中国語	Level 2 a	○	—
	Level 3 b	—	○	スペイン語	Level 2 b	—	○
ド イ ツ 語	Level 1 a	○	—	朝鮮・韓国語	Level 1 a	○	—
	Level 1 b	○	○	ポルトガル語	Level 1 b	—	○
	Level 2 a	○	—	古典ギリシア語	Level 1	—	○
	Level 2 b	—	○	ラテン語			
				イタリア語			
				オランダ語			

注 授業 Level 1, 2, 3 は、この順で授業内容が高度になります。英語は、Level 1（初級レベル程度）は開講しません。

セミナー

英 語	科 目	開講期間	
		前期	後期
	言語文化セミナー	○	○
	言語表現セミナー	○	○

II. 授業期間・休業日・休講日・授業時間帯

1. 授業期間

前期：2006年4月10日(月)
～2006年7月21日(金)
後期：2006年10月2日(月)
～2007年2月2日(金)

2. 休業日

夏季休業期間：2006年8月8日(火)
～2006年9月30日(土)
冬季休業期間：2006年12月28日(木)
～2007年1月7日(日)

3. 休講日

名大祭期間：

2006年6月1日(木)午後
～6月2日(金)

大学入試センター試験実施準備：

2007年1月19日(金) (予定)

4. 定期試験期間

前期：2006年7月25日(火)～8月7日(月)

後期：2007年2月5日(金)～2月19日(月)

5. 授業時間帯

第1時限 8：45～10：15

第2時限 10：30～12：00

第3時限 13：00～14：30

第4時限 14：45～16：15

第5時限 16：30～18：00

III. 受講対象者

受講対象者は、本学の学部学生、大学院生、研究生等及び本学職員です。

ただし、特別聴講学生、科目等履修生、聴講生は受講できません。

受講手続きをするに当たっては、本冊子7ページ以降の授業時間割表の備考欄の記述に注意して下さい。

IV. 受講の辞退

事情により学期途中で受講できなくなった場合には、国際言語文化研究科事務室で交付される所定の「全学向け授業辞退届」を、必ず授業担当教員に提出して下さい。この手続きを行わずに受講放棄すると、以後、受講を認めないことがあります。

V. 休講等

各授業科目の休講、教室変更、授業に関することは、国際言語文化研究科棟1階掲示板(玄関左側)で通知します。

VI. 成績の通知

成績評価の通知は以下のとおり行います。

1. 学部学生、大学院生、研究生等については、各部署長あてに通知します。
2. 職員については、本人に通知します。

VII. 受講申込み手続き

1. 外国語特別研修コース

英語

①申込場所

国際言語文化研究科事務室窓口(5ページの配置図を参照)

②申込期間及び時間

期間：2006年4月6日(木)・7日(金)

時間：9：00～12：00

13：00～17：00

* 申込期間以後は受け付けませんので注意して下さい。

③申込方法

「受講申込みカード」は国際言語文化研究科棟1階(5ページの配置図を参照)においてあります。

学部学生・大学院生・研究生等及び職員用：黄色(三連)

受講希望者は、該当するカードに必要な事項を記入し、受付に提出して下さい。

その際「本人及び教員保存用」のカードの紙片を受領して下さい。

④受講手続き

1. 「英語 Level 2」及び「英語 Level 3」の受講を希望する人はすべて、TOEIC公開試験あるいはその模擬問題集によって得た自分の英語力の点数を、受講申請の際に記入せねばなりません。TOEIC受験、あるいはその模擬問題集の採点は各自で行って下さい。

1) その模擬問題集として、例えば以下のものが出版されています。

(1) 『TOEIC公式ガイド&問題集 Vol.2』(国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC 運営委員会、2002年) 2,940円

(2) 岩村圭南(著) 『TOEIC テストまるごと模試600問-CD 2枚付き』(アルク、2004年) 2,310円

(3) 『TOEIC テスト完全攻略』(旺文社 デジタルインスティテュート、2001年) 7,140円

(4) 『TOEIC テストスーパー模試シリーズ470点攻略』『TOEIC テストスーパー模試シリーズ600点攻略』、『TOEIC テストスーパー模試シリーズ730点攻略』(以上三点、旺文社 デジタルインスティテュート、2003年) 7,140円

(5) TOEIC スコアの自己採点には、名

大生協が実施している年4回（5，7，11，1月）のカレッジTOEICも利用できます。

- 2) 受講希望者は、TOEICあるいはその模擬問題集によって知り得た自分の英語力に応じて、「英語 Level 2」あるいは「英語 Level 3」のどちらかを選択し、申請して下さい。

英語 Level 2 受講者の英語力：

TOEIC 650点以上～749点以下

英語 Level 3 受講者の英語力：

TOEIC 750点以上

なお、各々の Level の点数（TOEIC）に満たない場合は、受付できません。さらに TOEIC 750 点以上の場合、Level 2 では受付できませんので、Level 3 を申込んで下さい。

2. 受講申込みの詳細は以下の通りです。

- 申込み方法：受講希望者は、「受講申込みカード」に必要事項を記入の上、4月7日（金）17時までに国際言語文化研究科事務室窓口提出して下さい。受領した本人保存用および教員保存用の紙片に記載してある受講受付番号が事務手続きに必要となりますので、必ずその紙片を第1週目の授業時に持参して下さい。

- カード記入事項：「受講申込みカード」には、記入する必要がある事柄として、次の項目が含まれています。

(1) TOEIC の点数。TOEIC の模擬問題集を使って自己採点した結果でも可。

(TOEIC 以外の試験の点数は不可。)

(2) 希望する級。英語 Level 2 あるいは英語 Level 3 のどちらか。

(3) 希望するクラス。(2) で決めたカテゴリーの中から受講したいクラスを3つまで。(記入した希望クラスまで調整できなかった場合、同じレベルの任意のクラスに振り分けられることがあります。)

3. 受講可能人数を超える場合は提出された「受講申込みカード」のデータをもとに受講調整を行い、各授業の受講

者を決定します（決定後の問い合わせには応じません）。ただし、定員に限りがあるので、受講希望者が全員受講できるとは限りません。

4. 各授業の受講調整の結果は、4月10日（月）9時00分（予定）までに国際言語文化研究科棟1階提示板（玄関左側）に掲示されます。

5. 第1週の授業を無断で欠席した学生は、受講放棄とみなしますのでご注意ください。この件に関する学生からの質問などに対して、国際言語文化研究科事務室は対応しません。

6. 第1週目の授業時に担当教員に教員保存用紙片を渡して下さい。なお決定された授業からの辞退は認められません。

7. 外国語特別研修コースの英語は、級を問わず一期に一クラスしか受講できません。

英語以外の外国語

全学向け授業としては、第2週〔4月17日（月）、18日（火）、19日（水）、20日（木）21日（金）〕から開講します。

受講手続きは、次のとおりです。なお、希望者が多数の場合は第1回の授業時に受講調整を行います。

学部学生、大学院生、研究生等及び職員は、下記の1) から3) に従って配付場所で「受講申込みカード」を受け取り、第1回の授業時に担当教員に教員保存用「受講票」を提出して下さい。なお、4) の受講者登録手続も必ず行って下さい。

- 1) 受講申込みカード配付場所

国際言語文化研究科棟1階（5ページの配置図を参照）

- 2) 配付期間及び配付時間

期 間：2006年4月17日(月)～

4月21日(金)

時 間：平日 9：00～17：00

- 3) 配付カード

青色（三連）

4) 受講登録手続

授業時の受講調整後、受講が許可された授業科目について、「受講申込みカード」のうち受講申込票（事務室保存用）を国際言語文化研究科事務室に提出して下さい（締切厳守）。

期 間：2006年4月17日(月)～
4月24日(月)
時 間：平日 9：00～17：00

2. セミナー

第1週〔4月10日（月）、11日（火）、12日（水）、13日（木）、14日（金）〕から開講します。

受講手続きは、次のとおりです。希望者が多数の場合は第1回の授業時に受講調整を行います。なお、全学教育科目（学部生授業）として登録する学生が優先されます。

学部学生、大学院生、研究生等及び職員は、
下記の1) から3) に従って配付場所で「受講申込みカード」を受け取り、第1回の授業

時に担当教員に教員保存用「受講票」を提出して下さい。なお、4) の受講者登録手続も必ず行って下さい。

1) 受講申込みカード配付場所

国際言語文化研究科棟1階（5ページの配置図を参照）

2) 配付期間及び配付時間

期 間：2006年4月10日(月)～
4月14日(金)
時 間：平日 9：00～17：00

3) 配付カード

青色（三連）

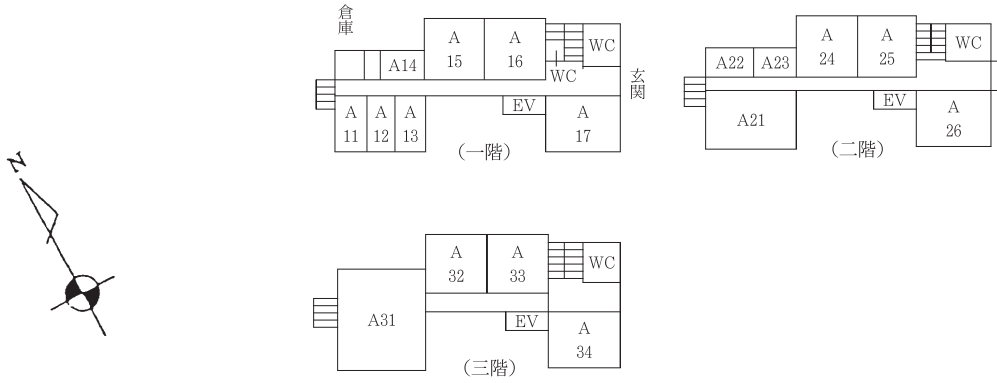
4) 受講登録手続

授業時の受講調整後、受講が許可された授業科目について、「受講申込みカード」のうち受講申込票（事務室保存用）を国際言語文化研究科事務室に提出して下さい（締切厳守）。

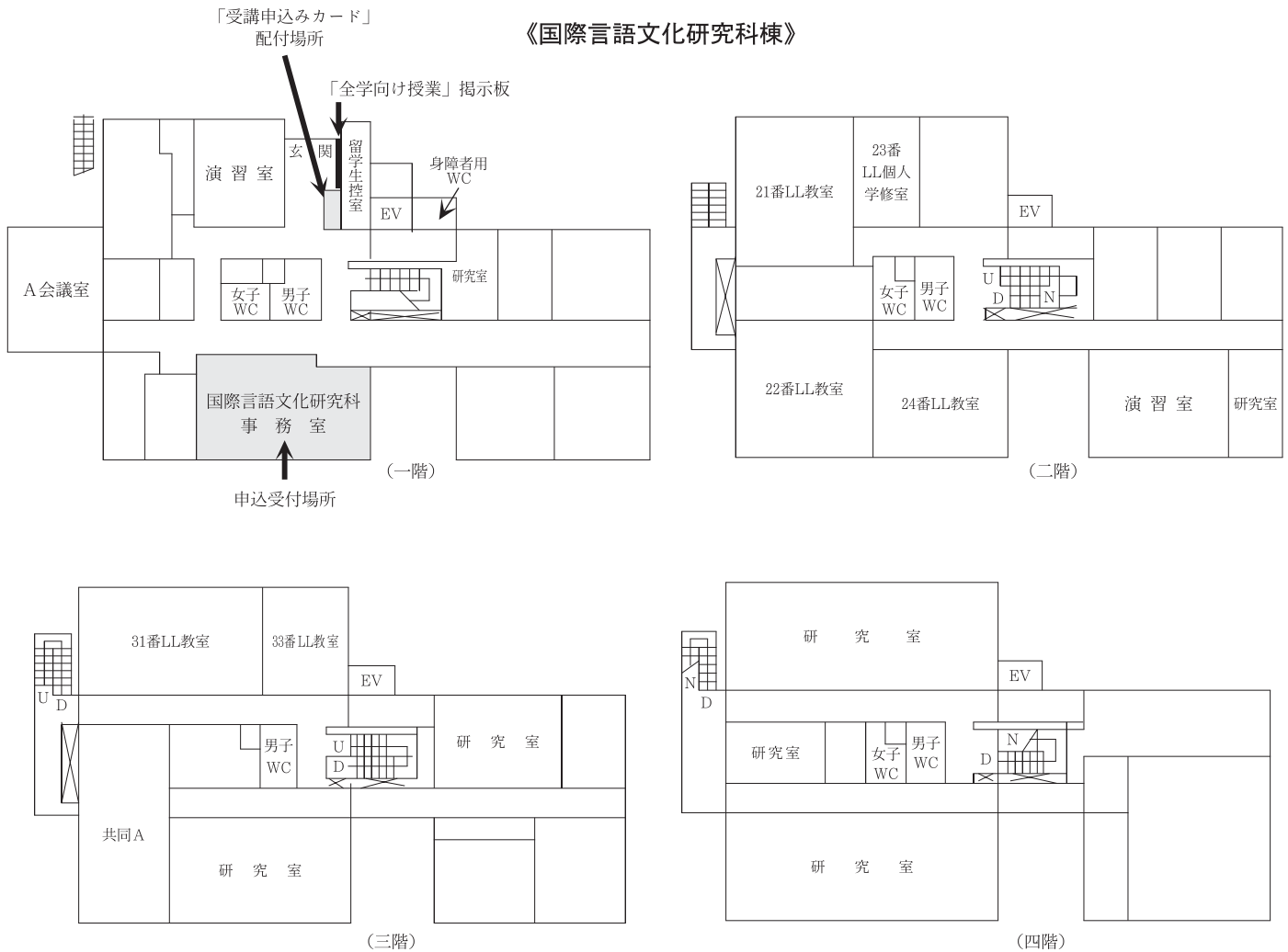
期 間：2006年4月10日(月)～
4月17日(月)
時 間：平日 9：00～17：00

全学教育棟及び国際言語文化研究科棟教室配置図

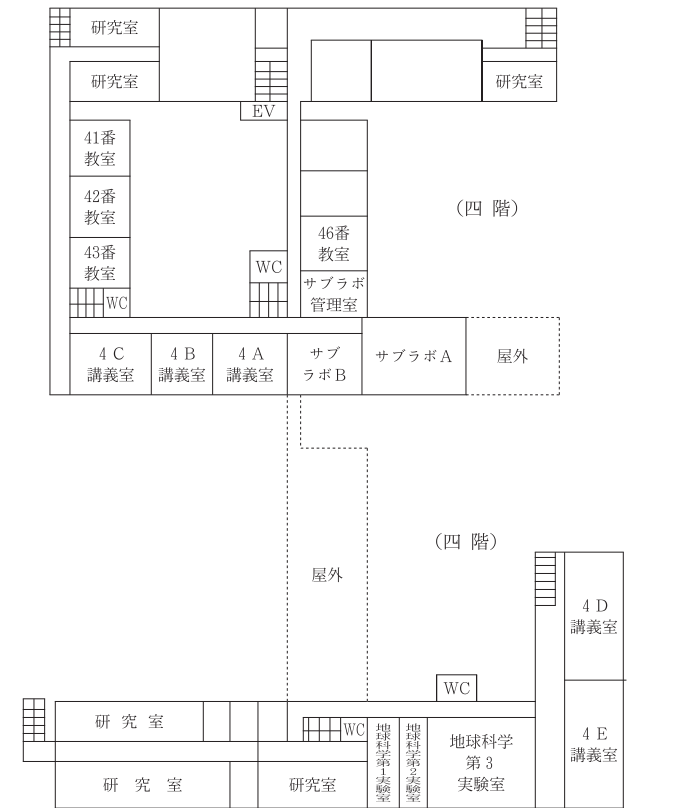
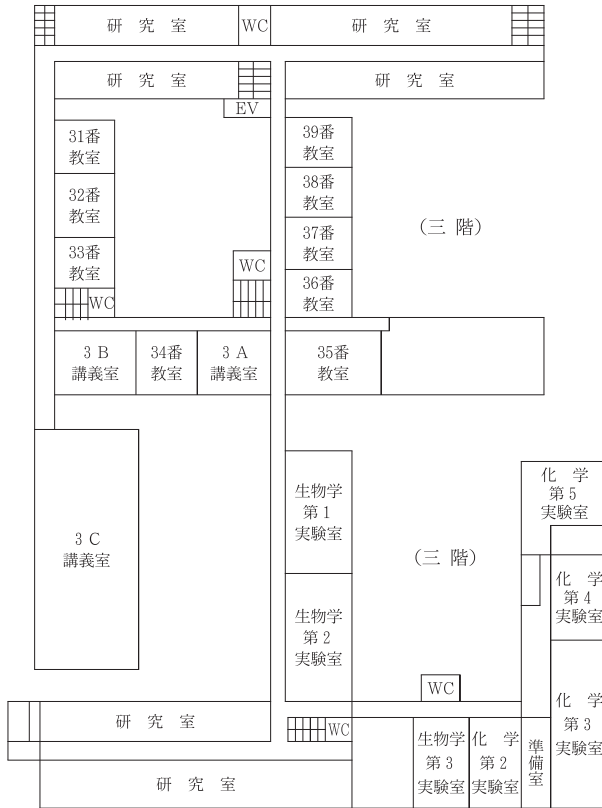
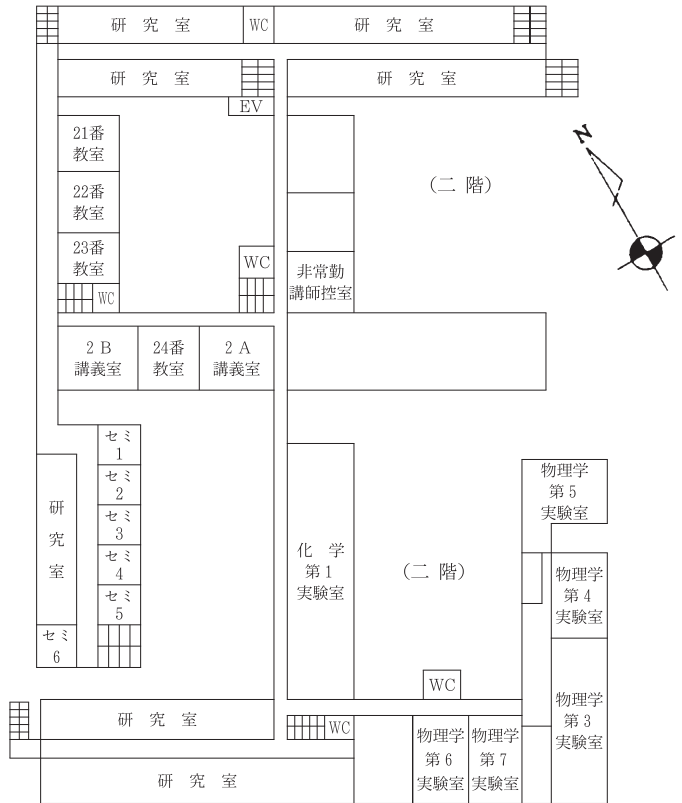
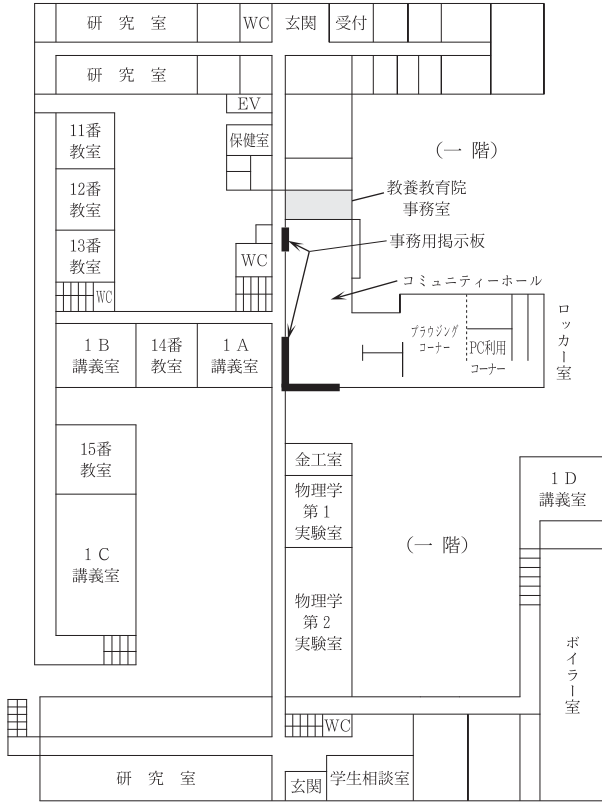
《全学教育棟 A館》



《国際言語文化研究科棟》



《全学教育棟本館（情報文化学部）》



2006年度前期・授業時間割表

「外国語特別研修コース」

	授 業 科 目	記号	担 当 教 員	曜日(時限)	教 室	定員	備 考
英 語	英語 Level 2a	A	MORITA CHUA LIANG	月(2)	語31	20	
	英語 Level 2a	B	MORITA CHUA LIANG	月(3)	語24	20	
	英語 Level 2a	C	M.C.Weeks	火(2)	24番	20	
	英語 Level 2a	D	POTTER SIMON R.	水(2)	15番	20	
	英語 Level 2a	E	M.C.Weeks	水(4)	13番	20	
	英語 Level 2a	F	POTTER SIMON R.	木(2)	A32	20	
	英語 Level 2a	G	HAIG EDWARD	金(2)	語33	20	
	英語 Level 3a	H	MORITA CHUA LIANG	火(3)	語22	20	
	英語 Level 3a	I	POTTER SIMON R.	水(3)	23番	20	
	英語 Level 3a	J	M.C.Weeks	木(3)	語33	20	
	英語 Level 3a	K	HAIG EDWARD	金(4)	33番	20	
ド イ ツ 語	ドイツ語 Level 1b		西 川 智 之	木(4)	語21	20	前年度後期から継続
	ドイツ語 Level 1a		小 坂 光 一	金(4)	語22	20	後期(有川)に継続
	ドイツ語 Level 2a		J. Peters	水(3)	38番	20	後期に継続
フ ラ ン ス 語	フランス語 Level 1a		藤 村 逸 子	金(5)	語21	20	後期に継続
	フランス語 Level 2a		DUCROS GARANCE	月(5)	35番	20	後期に継続
	フランス語 Level 2a		奥 田 智 樹	金(5)	語24	20	
ロ シ ア 語	ロシア語 Level 1a		SAVELIEV IGOR	火(2)	31番	20	後期に継続
	ロシア語 Level 2a		山崎 タチアナ	金(3)	語24	20	後期に継続
中 国 語	中国語 Level 1a		加 納 光	水(1)	21番	20	後期に継続
	中国語 Level 2a		劉 欣	水(3)	A17	20	後期に継続
ス ペ イ ン 語	スペイン語 Level 1a		宮 下 克 子	水(4)	12番	20	
	スペイン語 Level 2a		川 田 玲 子	木(4)	語24	20	
朝 鮮・韓 国 語	朝鮮・韓国語 Level 1a		洪 順 愛	金(3)	A34	20	後期に継続
	朝鮮・韓国語 Level 2a		鄭 芝 淑	火(4)	語24	20	後期に継続
古 典 ギ リ シ ア 語	古典ギリシア語 Level 1a		有 川 貫 太 郎	火(4)	語22	20	後期に継続
ポ ル ト ガ ル 語	ポルトガル語 Level 1a		瀧 藤 千 恵 美	木(4)	語33	20	後期に継続
	ポルトガル語 Level 2a		水 戸 博 之	金(1)	語22	20	後期に継続
ラ テ ン 語	ラテン語 Level 1a		水 戸 博 之	金(2)	語22	20	後期に継続
イ タ リ ア 語	イタリア語 Level 1a		C. Galisch	水(4)	22番	20	前期から継続

「言語文化・表現セミナー」

	授 業 科 目	担 当 教 員	曜日(時限)	教 室	定員	備 考
英 語	言語文化セミナー	M.C.Weeks	火(4)	A16	20	全学部
	言語文化セミナー	鈴 木 繁 夫	木(3)	A11	20	全学部
	言語文化セミナー	長 畑 明 利	金(3)	A17	20	全学部
	言語表現セミナー	外 池 俊 幸	月(3)	A24	20	全学部
	言語表現セミナー	滝 沢 直 宏	火(1)	サブラ#B	20	全学部
	言語表現セミナー	木 下 徹	火(4)	サブラ#B	20	全学部
	言語表現セミナー	杉 浦 正 利	水(3)	サブラ#B	20	全学部

2006年度後期・授業時間割表

「外国語特別研修コース」

	授 業 科 目	記号	担 当 教 員	曜日(時限)	教室	定員	備 考
英 語	英語 Level 2b	A	MORITA CHUA LIANG	月(3)	語22	20	
	英語 Level 2b	B	HAIG EDWARD	火(4)	31番	20	
	英語 Level 2b	C	MORITA CHUA LIANG	水(2)	語24	20	
	英語 Level 2b	D	M.C.Weeks	水(4)	語21	20	
	英語 Level 2b	E	POTTER SIMON R.	木(2)	36番	20	
	英語 Level 2b	F	M.C.Weeks	木(3)	語33	20	
	英語 Level 3b	G	M.C.Weeks	火(2)	A13	20	
	英語 Level 3b	H	MORITA CHUA LIANG	火(3)	語21	20	
	英語 Level 3b	I	POTTER SIMON R.	水(3)	語24	20	
ド イ ツ 語	ドイツ語 Level 1b		有 川 貫太郎	木(4)	語24	20	前期(小坂)から継続
	ドイツ語 Level 2b		J. Peters	火(3)	語31	20	前期から継続
フ ラ ン ス 語	フランス語 Level 1b		鶴 卷 泉 子	月(5)	43番	20	前期から継続
	フランス語 Level 2b		DUCROS GARANCE	木(5)	語24	20	前期から継続
ロ シ ア 語	ロシア語 Level 1b		郡 敏 子	火(2)	語33	20	前期から継続
	ロシア語 Level 2b		山崎 タチアナ	金(3)	A25	20	前期から継続
中 国 語	中国語 Level 1b		加 納 光	水(2)	A25	20	前期から継続
	中国語 Level 2b		前田 光 子	月(3)	22番	20	前期から継続
ス ペ イ ン 語	スペイン語 Level 1b		A. Villalobos	水(4)	語22	20	
	スペイン語 Level 2b		西 村 秀 人	木(4)	語21	20	
朝 鮮・韓 国 語	朝鮮・韓国語 Level 1b		洪 順 愛	金(3)	A26	20	前期から継続
	朝鮮・韓国語 Level 2b		鄭 芝 淑	火(4)	42番	20	前期から継続
古 典 吉 リ シ ア 語	古典ギリシア語 Level 1b		有 川 貫太郎	火(4)	語22	20	前期から継続
ポ ル ト ガ ル 語	ポルトガル語 Level 1b		重 松 由 美	木(4)	38番	20	前期から継続
	ポルトガル語 Level 2b		水 戸 博 之	金(1)	語21	20	前期から継続
ラ テ ン 語	ラテン語 Level 1b		水 戸 博 之	金(2)	語21	20	前期から継続
オ ラ ン ダ 語	オランダ語 Level 1		小 坂 光 一	水(2)	語33	20	
イ タ リ ア 語	イタリア語 Level 1b		C. Galisch	水(4)	語24	20	前期から継続

「言語文化・表現セミナー」

	授 業 科 目	担 当 教 員	曜日(時限)	教室	定員	備 考
英 語	言語文化セミナー	村 主 幸 一	月(4)	37番	20	全学部
	言語文化セミナー	上 原 早 苗	火(5)	23番	20	全学部
	言語文化セミナー	涌 井 隆	水(2)	A32	20	全学部
	言語表現セミナー	長 畑 明 利	金(2)	39番	20	全学部
	言語表現セミナー	鈴 木 繁 夫	金(4)	サブラボB	20	全学部

〈外国語特別研修コース〉

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2a	MORITA CHUA LIANG	月(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい The purpose of this course is to help students become more confident and comfortable in the use of English, especially in spoken English, and to enable them to express themselves better in the language. Students will be taught to express their ideas and opinions more effectively and therefore to be better communicators.</p> <p>授業内容 In my experience of teaching English in Japan, I have found that many students acquire many words and phrases over their school years without learning how to put them into use. Similarly, they spent tremendous amounts of time on grammar but without using them effectively when they speak English. A major goal of this course is to help students tap into their passive knowledge of English and turn it into a tool of communication. The emphasis is on practical usage rather than on theoretical principles. Class time is spent in a variety of ways, including short video viewing, student presentations, pair work, group work, class debate etc. There are plenty of opportunities for students to speak in English. Unfamiliar words and phrases will be introduced and students will be encouraged to use them in daily situations. Common vocabulary and grammatical errors will also be pointed out. Aspects of pronunciation will be elaborated on in order to help students speak more clearly and therefore to become more intelligible to an international audience. The topics covered have included the following in the past but may differ depending on students' interests: cultural miscommunication, common English mistakes among Japanese students, difficult language situations (such as apologising, asserting oneself etc.), different varieties of English (British English, American English etc.) and current controversial subjects (such as discrimination, sexual harassment etc.).</p> <p>成績評価方法 Evaluation is based on attendance, participation and an oral examination. Participation in each lesson is a very important basis for evaluation. The oral examination is conducted individually at the end of the semester.</p> <p>参考書 The Cambridge Encyclopedia of the English Language by David Crystal.</p> <p>注意事項 This course is conducted entirely in English. Students must be warned that the lecturer has limited command of the Japanese language. Students who enroll in this course must be comfortable with the idea of English being used as the medium of instruction.</p>
英 語 Level 2a	MORITA CHUA LIANG	月(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい The purpose of this course is to help students become more confident and comfortable in the use of English, especially in spoken English, and to enable them to express themselves better in the language. Students will be taught to express their ideas and opinions more effectively and therefore to be better communicators.</p> <p>授業内容 In my experience of teaching English in Japan, I have found that many students acquire many words and phrases over their school years without learning how to put them into use. Similarly, they spent tremendous amounts of time on grammar but without using them effectively when they speak English. A major goal of this course is to help students tap into their passive knowledge of English and turn it into a tool of communication. The emphasis is on practical usage rather than on theoretical principles. Class time is spent in a variety of ways, including short video viewing, student presentations, pair work, group work, class debate etc. There are plenty of opportunities for students to speak in English. Unfamiliar words and phrases will be introduced and students will be encouraged to use them in daily situations. Common vocabulary and grammatical errors will also be pointed out. Aspects of pronunciation will be elaborated on in order to help students speak more clearly and therefore to become more intelligible to an international audience. The topics covered have included the following in the past but may differ depending on students' interests: cultural miscommunication, common</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2a	MORITA CHUA LIANG	月(3)	20	English mistakes among Japanese students, difficult language situations (such as apologising, asserting oneself etc.), different varieties of English (British English, American English etc.) and current controversial subjects (such as discrimination, sexual harassment etc.). 成績評価方法 Evaluation is based on attendance, participation and an oral examination. Participation in each lesson is a very important basis for evaluation. The oral examination is conducted individually at the end of the semester. 参考書 The Cambridge Encyclopedia of the English Language by David Crystal. 注意事項 This course is conducted entirely in English. Students must be warned that the lecturer has limited command of the Japanese language. Students who enroll in this course must be comfortable with the idea of English being used as the medium of instruction.
英 語 Level 2a	M.C.Weeks	火(2)	20	本講義の目的およびねらい The aim is to provide students with opportunities to learn and practice English or a broad range of contexts, but with an emphasis on practical situations. This will give students the chance to develop familiarity with the most useful language structures for increased fluency and confidence in international situations both abroad and here in Japan. 授業内容 In most lessons students will be seated in groups of two, three or four to maximize conversation opportunities. Lessons involve a wide range of activities, including free conversation to improve English fluency, role playing in common international travel situations, academic listening and note-taking, popular media viewing, even music listening. 1. Orientation 2. Conversation-building exercises, model dialogues 3. Travel video viewing 4-5. English for travel abroad in various situations 6. Internet research exercise on international travel destinations 7. English for dining 8. Travel video viewing 9. Further conversation structures for international contexts 10. Academic listening and note-taking from Discovery Channel 11. Second internet research exercise and discussion 12. Party conversation, listening test 12. TV comedy viewing and cultural difference discussion 13-14 Lessons as per students requests 15. Course review and final informal conversation practice Though the content is largely settled, the detailed schedule above may be altered in order to adapt to progress and study interests of students. All activities are new. Video is new from English language media. 成績評価方法 Listening test 15% Vocabulary record 10% Final conversation 30% Written report 15% Participation, including attendance and homework completion 30% 参考書 Dictionary containing English 注意事項 English is the language of the classroom. Attendance is checked for each lesson.
英 語 Level 2a	POTTER SIMON R.	水(2)	20	後日、国際言語文化研究科棟 1 階掲示板に掲示します。
英 語 Level 2a	M.C.Weeks	水(4)	20	本講義の目的およびねらい The aim is to provide students with opportunities to learn and practice English or a broad range of contexts, but with an emphasis on practical situations. This will give students the chance to develop familiarity with the most useful language structures for increased fluency and confidence in international situations both abroad and here in Japan. 授業内容 In most lessons students will be seated in groups of two, three or four to maximize conversation opportunities. Lessons involve a wide range of activities, including free conversation to improve English

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2a	M.C.Weeks	水(4)	20	<p>fluency, role playing in common international travel situations, academic listening and note-taking, popular media viewing, even music listening.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Orientation 2. Conversation-building exercises, model dialogues 3. Travel recommendations video viewing 4-5. English for travel abroad in various situations 6. Internet research exercise on international travel destinations 7. English for dining 8. Travel video viewing 9. Further conversation structures for international contexts 10. Academic listening and note-taking from Discovery Channel 11. Second internet research exercise and discussion 12. Party conversation, listening test 12. TV comedy viewing and cultural difference discussion 13-14 Lessons as per students requests 15. Course review and final informal conversation practice <p>Though the content is largely settled, the detailed schedule above may be altered in order to adapt to progress and study interests of students. All exercises are new. Video is new from English language media.</p> <p>成績評価方法 Listening test 15% Vocabulary record 10% Final conversation 30% Written report 15% Participation, including attendance and homework completion 30%</p> <p>教科書 nil. All materials supplied by teacher. 参考書 Dictionary containing English 注意事項 English is the language of the classroom. Attendance is checked for each lesson.</p>
英 語 Level 2a	POTTER SIMON R.	木(2)	20	後日、国際言語文化研究科棟 1 階掲示板に掲示します。
英 語 Level 2a	HAIG EDWARD	金(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい</p> <p>Critical Discourse Analysis (CDA) is a new interdisciplinary approach to the study of social problems such as globalisation, the environment, gender issues and racism. As one of the most radical (and controversial) fields in the humanities, CDA differs from conventional sociolinguistic approaches to social issues in that it goes beyond mere description of textual phenomena to the interpretation and evaluation of the complex relationships between language, discourse, ideology and power.</p> <p>授業内容 The course will consist of four parts:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. First, we will consider the theoretical basis of CDA, locating this new approach in relation to earlier and alternative approaches. CDA draws on theories from a number of fields, but principally from linguistics and sociology. The linguistic theory which informs CDA is known as Systemic functional Grammar. In this section of the course students will be introduced to the basic concepts and key analytical terms associated with this semantically-oriented view of language. From sociology, CDA draws on a more diverse range of theories including those connected with Marxism, structuration and critical realism. Finally, crucial to the central problem of CDA, namely how to connect linguistic and social theory, is the work of Michel Foucault on discourse and intertextuality and we shall study these ideas in some detail. 2. Second, students will be introduced to some of the main methods of CDA. Although there are a number of competing schools of CDA, in this course we shall concentrate on the close-textual analysis methods associated with Norman Fairclough and the so-called Lancaster School. 3. Third, working in groups, students will use CDA to conduct a brief investigation into an issue of their choice, concluding with a group presentation. 4. Finally, in the light of their experience, students will be asked to reflect critically on the strengths and weaknesses of CDA itself. <p>成績評価方法 Students will be evaluated according to their rate of attendance and degree of active participation in the lessons.</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 Level 2a	HAIG EDWARD	金(2)	20	<p>教科書 Materials to be supplied by the instructor.</p> <p>注意事項 Although this course will introduce a considerable amount of technical sociolinguistic terminology prior familiarity with either linguistics or sociology will not be a requirement for participation in this course.</p>
英 語 Level 3a	MORITA CHUA LIANG	火(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい The purpose of this course is to help students become more confident and comfortable in the use of English, especially in spoken English, and to enable them to express themselves better in the language. Students will be taught to express their ideas and opinions more effectively and therefore to be better communicators. The lecturer hopes that students will achieve a standard as close to that of native English speakers as possible.</p> <p>授業内容 In my experience of teaching English in Japan, I have found that many students acquire many words and phrases over their school years without learning how to put them into use. Similarly, they spent tremendous amounts of time on grammar but without using them effectively when they speak English. A major goal of this course is to help students tap into their passive knowledge of English and turn it into a tool of communication. New words and phrases will of course be introduced in order to improve students' power of expression. Every effort will be made to ensure that they are put into active use. The emphasis is on practical usage rather than on theoretical principles. Class time is spent in a variety of ways, including short video viewing, student presentations, pair work, group work, class debate, other class activities etc. Articles from recently published magazines or newspapers will sometimes be assigned as homework for discussion in the following lesson. There are plenty of opportunities for students to speak in English. Critical thinking and analysis and voicing of one's opinions are strongly encouraged. Common vocabulary and grammatical errors will be pointed out and explained. Aspects of pronunciation will be elaborated on in order to help students speak more clearly and therefore to become more intelligible to an international audience. The topics covered have included the following in the past but may differ depending on students' interests: cultural miscommunication, common English mistakes among Japanese students, difficult language situations (such as apologising, asserting oneself etc.), different varieties of English (British English, American English etc.) and current controversial subjects (such as divorce, discrimination, sexual harassment, diseases etc.).</p> <p>成績評価方法 Evaluation is based on attendance, participation and an oral examination. Participation in each lesson is a very important basis for evaluation. The oral examination is conducted individually at the end of the semester.</p> <p>参考書 The Cambridge Encyclopedia of the English Language by David Crystal.</p> <p>注意事項 This course is conducted entirely in English. Students must be warned that the lecturer has limited command of the Japanese language. Students who enroll in this course must be comfortable with the idea of English being used as the medium of instruction.</p>
英 語 Level 3a	POTTER SIMON R.	水(3)	20	後日、国際言語文化研究科棟 1 階掲示板に掲示します。
英 語 Level 3a	M.C.Weeks	木(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい The aim is to provide an environment in which advanced English students can both maintain their level and develop improved English skills for a variety of academic, work and everyday situations. Through discussion of various cross-cultural themes, as well as practice of the English suitable to such discussion, it is hoped that students can increase their confidence to deal with all kinds of complicated and subtle communication situations.</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
英語 Level 3a	M.C.Weeks	木(3)	20	<p>授業内容 This course is primarily organized around themes.</p> <p>1 Orientation 2-3 Human relationships, families 4-5 Health and well-being 6-7 Work and free time 8-9 Popular entertainment 10-11 Future lives and technology 12-14 student request lessons 15 Course review, final conversation practice</p> <p>Discussions on these themes will often be stimulated by short video or DVD viewing and will occasionally involve short internet research exercises. In most lessons students will be seated in groups of two, three or four to maximize conversation opportunities. Students seeking extra help with development in specific language areas will be encouraged to consult with the teacher. All viewing material is new and from real English-language media.</p> <p>成績評価方法 Listening test 15% Vocabulary record 10% Final conversation 30% Written report 15% Participation, including attendance and homework completion 30%</p> <p>教科書 nil. All materials supplied by teacher.</p> <p>参考書 good dictionary</p> <p>注意事項 English is the language of the classroom. Attendance is checked for each lesson.</p>
英語 Level 3a	HAIG EDWARD	金(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい</p> <p>The primary purpose of this advanced level course is to assist students whose theoretical knowledge of English is already comparatively high to gain greater confidence and spontaneity in practical spoken interaction. It aims to do this firstly by introducing students to an exciting form of drama known as improvisation and secondly by exploring in a 'readers theatre' workshop format the work of some outstanding contemporary British dramatists.</p> <p>履修条件・関連する科目等</p> <p>There are no required subjects for this course. However, students who have previously taken this instructor's intermediate level course will find a certain degree of overlap during the first few weeks.</p> <p>授業内容 This course will begin by briefly reviewing some of the improvised drama games practiced in this instructor's intermediate level course. In this part of the course, students will work in teams to perform short improvised scenes in English. These scenes do not require any memorization of scripts but rely instead on the interaction between students' linguistic resources and their imaginations. The aim is to create a cooperative and supportive environment in which students develop their ability to work creatively and confidently with whatever communication resources they possess.</p> <p>Once the above target has been achieved students will move on to practicing what is known as 'readers theatre'. In this part of the course, students will perform short plays or scenes from longer plays by contemporary British playwrights. Here too there will be no requirement to memorize scripts and the emphasis will be on bringing to life the words on the page in as entertaining and dynamic a way as possible. One of the playwrights whose work we will be studying this year is Harold Pinter who was awarded the 2005 Nobel Prize for Literature.</p> <p>成績評価方法 Students will be evaluated according to their rate of attendance and degree of active participation in the lessons, both of which are of particular importance in this kind of course.</p> <p>教科書 None. Materials for readers theatre lessons to be supplied by the instructor; imagination to be supplied by the students.</p> <p>注意事項 Students who enroll for this course should be aware that it requires a high level of physical and mental activity.</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
ドイツ語 Level 1b	西川 智之	木(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい 前年度後期からの継続授業ですが、ある程度のドイツ語の基礎があれば今学期からの受講も歓迎します。 パートナー練習を中心に、自分たちが授業に積極的に参加することで、ドイツ語の文法の基礎を身につけてもらいます。</p> <p>履修条件・関連する科目等 授業を受講するためには、動詞の現在人称変化・名詞と冠詞類の格変化・前置詞・話法の助動詞など、ドイツ語の初歩の知識が必要となります。</p> <p>授業内容 授業のおおよその進行は： 1. まず授業の最初に前回の授業内容の小テストを行う。 2. 例文の提示。 3. 教師に倣っての復唱。 4. 文法や語句についての説明。 5. パートナーとの練習等による文法項目や語句、表現の習得。 週1回の授業なので、練習問題などの宿題が課されることも多いと思います。</p> <p>ドイツ語の簡単な文章を読んだりするのに必要な基礎を、能動的に体得してください。教科書をすべて終えることは無理なので、すべての項目を網羅的にあつかうのではなく、必要と思われる項目は時間をかけて勉強していきます。</p> <p>成績評価方法 毎回の小テストと、平常点を中心に成績評価を行います。授業の進行具合によっては、学期末テスト・中間テストを行い、成績評価の参考にすることもあります。</p> <p>教科書 前田良三、高木葉子『身につくドイツ文法』（郁文堂）</p> <p>注意事項 パートナー練習を中心に授業を進行するので、学生諸君の積極的な授業への参加が求められます。また、小テストの準備など、家での復習が重要となります。</p>
ドイツ語 Level 1a	小坂 光一	金(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい ドイツ語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいてドイツ語に関する基礎知識と運用力を養成する科目である。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。</p> <p>履修条件・関連する科目等 授業は演習（特に口頭練習）を中心にして行われるので、毎回出席できることが履修の条件となる。</p> <p>授業内容 1. この授業ではドイツ語会話の基礎となる事項を練習する。 2. I期で学習する内容： 4月 動詞の現在形を使った表現 5月 数字、冠詞類を使った表現 6月 間接疑問文、人称代名詞を使った表現、助動詞を使った表現 7月 過去を意味する表現、前置詞に関するまとめ 3. 無断欠席は4回まで。 4. 外国語の学習では間違いを恐れてはいけません。完璧をめざしたらいつまでもたってもそのことばを使用することができません。従って、間違いの数と平常点の相関関係はありません。授業中は間違いを恐れず、思い切って練習してください。 5. 授業の流れは以下の通りです。 1. 単語ごとの練習 2. コンマごとに区切った練習 3. センテンスごとの練習 4. カセットテープと同時に（ポーズなしで）発音する練習 5. 書き取りの練習 6. 書き取った内容に関するドイツ語での質問にドイツ語で答えるテクニックの練習</p> <p>成績評価方法 平常のできばえと試験の結果が総合的に判断される。</p> <p>教科書 小坂光一著『ドイツ語で話してみよう』（同学社）</p> <p>参考書 小坂光一著『マニュアルドイツ語ABC』（郁文堂） （必要と思う人だけが購入すればいい）</p> <p>注意事項 LL装置を使う授業では、練習状況は全く機械的に、かつストレートに平常点に反映される。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
ドイツ語 Level 2a	J. Peters	水(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい このコースは「聞く・話す」と「読み・書く」能力を養成する。</p> <p>履修条件・関連する科目等 二年時修了程度のドイツ語能力を前提とします。</p> <p>授業内容 Die Anwendung grundlegender und wichtiger grammatischer Strukturen soll gefestigt werden. Darüberhinaus werden kompliziertere grammatische Strukturen behandelt, die einem bedeutende kommunikative Möglichkeiten an die Hand geben oder einfach nur eine grössere Variabilität im Ausdruck ermöglichen.</p> <p>成績評価方法 平常点(宿題、積極的な授業参加)、小テスト、学期末の試験</p> <p>教科書 Albrecht, Ulrike u.a.: Passwort Deutsch 3 (Klett)</p>
フランス語 Level 1a	藤村逸子	金(5)	20	<p>本講義の目的およびねらい フランス語の基礎的な文法知識を獲得しつつ、それと同時に初歩的な運用能力も修得することを目指す。また、フランス語圏の社会と文化について、基礎的な知識を与える。</p> <p>履修条件・関連する科目等 新たにフランス語を始める学生のためのクラス。</p> <p>授業内容 文法、読解、文化、コミュニケーションの四つの要素を豊かに取り入れた総合的な教材を使い、週一度の授業で一年間かけてフランス語の基礎を修得する。後期月曜5限の授業に接続する。 週一コマのクラスであるが、この授業にきちんとついてきて、教科書を使って自習すれば、一年後にはフランス語の文章を読んだり、フランス語会話がそこそこできたりするまでになる。文法項目は1年次の終わりに、初級文法を修了する。</p> <p>成績評価方法 平常点と筆記試験。</p> <p>教科書 『アミカルマン・ビス』澤田他著、駿河台出版社</p> <p>参考書 授業中に指示する。</p> <p>注意事項 定員は20名。</p>
フランス語 Level 2a	DUCROS GARANCE	月(5)	20	<p>本講義の目的およびねらい フランス語基礎文法を既に習得した学生を対象とし、フランス語の文章の読解能力、フランス語による表現能力の向上をはかる。また、フランス語圏の社会・文化について一層深い理解を獲得できるようにする。</p> <p>授業内容 Les diverses activités proposées en cours ont un double but: - aider les étudiants à améliorer leur expression générale tout en la rendant plus spontanée dans la vie quotidienne - apprendre aux étudiants à exprimer leurs idées et leurs sentiments. Ces activités consistent essentiellement en des exercices de vocabulaire, des activités de production orale à faire à deux et des discussions en petits groupes sur des sujets liés de préférence à la société française.</p> <p>成績評価方法 - présence et participation en cours - petits tests - examen final</p> <p>教科書 "DELFF nouvelle formule" Hachette FLE</p> <p>参考書 授業の中で、適宜指示する。</p>
フランス語 Level 2a	奥田智樹	金(5)	20	<p>本講義の目的およびねらい フランス語基礎文法を既に習得した学生を対象とし、フランス語の文章の読解能力、フランス語による表現能力の向上をはかる。また、フランス語圏の社会・文化について一層深い理解を獲得できるようにする。</p> <p>授業内容 日本文化に精通し、滞日経験も豊富なフランス人の手によって書かれた、日本に関する文明批評的なエッセーを読む。取り上げられるテーマは、言語、社会、風俗など多岐に渡っており、私たち日本人には慣れ親しんでいるがゆえにかえって気づかない日本の様々な側面を、違った視点から顧みるきっかけになればと思う。授業は、あらかじめ前の週に、クラスの3分の1(7~8名)ずつの方に、順番に決められた範囲の和訳を提出してもらい、それらを全員で検討する形で行うので、特に意欲のある皆さんの参加を期待している。また、折に触れて、本文中に現れる中級文法に属する事項の演習問題や、本文中の重要な表現を応用した簡単な仏作文の練習も行う。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
フランス語 Level 2a	奥田 智樹	金(5)	20	<p>う予定である。</p> <p>成績評価方法 平常点と、3週間ごとの和訳レポート、および学期末の筆記試験による。</p> <p>教科書 コピーを配布する。</p> <p>参考書 授業の中で、適宜指示する。</p>
ロシア語 Level 1a	SAVELIEV IGOR	火(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい ロシア語の基礎を学ぶための科目である。バランスよくロシア語を学べるよう、基礎文法の学習だけでなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行う。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景的知識を学習することによりロシア語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一步とする。目標は「ロシア語に触れる」である。</p> <p>授業内容 ロシア語の基礎を学ぶための科目で基礎文法の学習を主眼とする。さらにそれに加えて、ロシアの文化・現実も覗いてみたい。</p> <p>授業テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文字と発音 (1) 2. アクセントと基本的な平叙文と疑問文 (1) 3. 文字と発音 (2)、基本的な平叙文と疑問文 (2) 4. 名詞の性 5. 文字と発音 (3)、動詞の現在人称変化 (1) 6. 子音の同化、アルファベット 7. 名詞の複数形と正書法の規則 8. 所有代名詞と疑問代名詞 9. 名詞の格と指示代名詞 10. 形容詞の性・数の変化 11. 動詞の現在人称変化 (2) 12. 前置格と前置詞 13. 動詞の過去形、生格 14. 所有の表現とその否定 15. 対格、活動体と不活動体 <p>成績評価方法 学期末試験と出席を重視する。授業への参加度も評価する。</p> <p>教科書 佐々木照央「速修ロシア語」(白水社)。</p> <p>参考書 露和辞典は、「研究社露和辞典」、「博友社露和辞典」、「岩波露和辞典」のうちから一冊を購入すること。</p> <p>注意事項 音読と辞書引きは不可欠。</p>
ロシア語 Level 2a	山崎 タチアナ	金(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい ロシア語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習うロシア語から使うロシア語」を指向する科目である。さらに高度な文法知識を得ると同時に、生のロシア語に実践的に対応できるように運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけロシア語を用いる。また、言語文化1あるいはロシア語Level 1に引き続き、さらにロシア語世界の理解を深める。目標は「ロシア語を活かす」である。</p> <p>授業内容 ロシア語に限らず各外国語の学習に欠かせないのは、「書く」、「読む」、「話す」、「聞く」という過程ですが、この授業はこれら4つの過程を逆順にし授業を進行していきます。具体的な流れは以下ようになります。テーマごとに聞き取りを行います。テーマにまつわる生徒たちとの会話を行います。セメスターの後半にインターネットでのロシア紹介などの記事を読みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ロシアへ入国、空港にて 2. ホテル 3. 地下鉄に乗る 4. 友だちが出来る 5. 大学でロシア語を学ぶ、その1 6. 大学でロシア語を学ぶ、その2 7. 夏休みの過ごし方 8. 前半の復習 9. インターネットで見えるロシア：政治 10. インターネットで見えるロシア：経済 11. インターネットで見えるロシア：芸術 12. インターネットで見えるロシア：祭り

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
ロシア語 Level 2a	山 崎 タチアナ	金(3)	20	<p>13. インターネットで見えるロシア：スポーツ 14. 私とロシア語、フリーターキング 15. 留学を終えて、帰国</p> <p>成績評価方法 評価の方法は、出席を重視すること、および試験期間内のマンツーマンでの口頭試験の2つの基準から成り立ちます。</p> <p>教科書 プリントを配布します。</p> <p>参考書 参考書は授業中に指示する。露和辞典は、「博友社ロシア語辞典」、「岩波ロシア語辞典」、「研究社露和辞典」の内から一冊を購入すること。</p> <p>注意事項 積極的に授業に参加することが望まれます。</p>
中国語 Level 1a	加 納 光	水(1)	20	<p>本講義の目的およびねらい 中国語 Level 1b は、中国語 Level 1a の継続であり、教科書も中国語 Level 1a で使用した教科書を継続して用いる。引き続き正しい発音の習得に重点を置きながら、今後中国語の学習を続けていくうえで必要な読解力、表現能力等の養成を目的とする。</p> <p>履修条件・関連する科目等 院生及び教職員も受講の対象とする。</p> <p>授業内容 中国語 Level 1b では、中国語 Level 1a で習得した411の音節の発音を固めながら、基礎的な文法事項を解説する。特に兼語文・比較表現・受身文・各種の補語・接続詞等に対する理解を促し、読解力の一層の養成を図るとともに、中国語表現の特徴について理解を深めるように指導する。</p> <p>成績評価方法 平常点と期末試験による。</p> <p>教科書 加納光・白木通・成戸浩嗣著「ようこそ、中国語の世界へ」(白帝社)</p>
中国語 Level 2a	劉 欣	水(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい この授業はかなり高度な聴解力と口頭表現力など特定の運用能力にしばって行われ、受講者の専門的要請にも対応できる高度な実践的運用能力の養成を目指す。</p> <p>学習意欲が旺盛でなければ授業についていくことはできない。 目標は「中国語を活かす」である。</p> <p>履修条件・関連する科目等 中国語の初級文法を習得していること</p> <p>授業内容 中国のビデオドラマを放映しながら、そこで用いられている表現を正確に聞き取る力、また、そこで用いられている表現を応用した口頭表現力養成の練習をしていく。</p> <p>この授業は中国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし、「習う中国語から使う中国語」を指向する。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の中国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するため、できるだけ中国語を使うようにしたい。</p> <p>言語文化科目Ⅰ、中国語 Level 1 に引き続き、さらに中国語世界の理解を深めていきたい。</p> <p>授業上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初の授業でガイダンスを行います。 参考書についてはガイダンスで説明します。 高度な聴解力、口頭表現力の養成をめざすので、中国語の基礎的な力が身に付いていること、積極的に授業に参加することが、受講の条件です。 <p>成績評価方法 授業で説明する。</p> <p>教科書 随時、プリント教材を配布する。</p> <p>参考書 必要に応じて授業で紹介する。</p>
スペイン語 Level 1a	宮 下 克 子	水(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい スペイン語は三億人以上の人々によって話されている言語であり、国際化著しい今日の社会を舞台にめざましい活躍が期待される学生諸君にとって、これを習得することは大変に有益なことと思われる。本授業においては、スペイン語の基礎文法を学ぶと共に、日常生活や旅行等に必要簡単な会話を身につけるべく、ビデオ等の教材を用いて多角的に学習を進める。テキスト、ビデオはスペイン及びラテンアメリカ諸国に関する情報を豊富に含むものであり、その雰囲気、文化、歴史等に対する学習者の興味を喚起することは間違いない。</p> <p>履修条件・関連する科目等</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
スペイン語 Level 1a	宮下克子	水(4)	20	<p>特にありません。初心者をも基本的に対象としますが、かつて学んだことがあるがあらためてもう一度スペイン語を学びたいという人も歓迎します。、</p> <p>LECCIÓN 1「空港でタクシーに乗る折の会話」及び、母音、子音の読み方、音節、アクセント等、スペイン語の発音、読み方の学習。</p> <p>LECCIÓN 2「ホテルのフロントでの会話」及び、男性名詞・女性名詞、複数形、冠詞、主格人称代名詞、動詞 ser の活用と用法。</p> <p>LECCIÓN 3「大学の外人コース受付での会話」及び、動詞 estar の活用と用法、疑問文・否定文、形容詞。LECCIÓN 4「大学のキャンパスでの会話」及び、規則活用動詞の活用。国名・国籍。</p> <p>LECCIÓN 5「授業の中の会話」及び、tener, ir, venir の活用、数字、時刻の言い方。</p> <p>LECCIÓN 6「キャンパスでの会話」及び、語幹変化動詞の活用、その他の不規則動詞、直接・間接目的格人称代名詞。</p> <p>LECCIÓN 7「サッカー場での会話」及び、所有詞、指示語、比較級、最上級。</p> <p>LECCIÓN 8「外国人コースの授業での会話」及び、点過去、前置詞。</p> <p>LECCIÓN 9「キャンパスの中庭での会話」及び、点過去不規則動詞、疑問詞。</p> <p>LECCIÓN 10「大学の喫茶店での会話」及び、線過去の活用と用法。</p> <p>LECCIÓN 11「休暇あけのキャンパスでの会話」及び、天候表現、存在文、不定語・否定語。</p> <p>LECCIÓN 12「街の喫茶店での会話」及び、現在分詞、曜日、手紙の書き方、メール。</p> <p>LECCIÓN 13「図書館での会話」及び、過去分詞、現在完了、関係代名詞。</p> <p>LECCIÓN 14「ホームステイ先の家での会話」及び、受動文、再起動詞。</p> <p>LECCIÓN 15「映画についての会話」及び、不定人称の表現。</p> <p>及び、ビデオ (ESPAÑA VIVA) を用いて、挨拶、買い物、紹介、などの簡単な会話を学ぶ。</p> <p>成績評価方法 1. 出席状況, 2. 試験, 又はレポート 3. 学習に向かう姿勢</p> <p>教科書 ESPAÑOL VIVO (生き生きスペイン語) 福嶋教隆朝日出版社</p> <p>参考書 辞書: 例えば『現代スペイン語辞典』白水社など。</p> <p>授業時にプリント等を配布する。</p> <p>注意事項 辞書に関しては、上記の『現代スペイン語辞典』に限るものではない。スペイン語を学習する上での各々の意図に応じて、あるいは好みに沿って選んでください。</p>
スペイン語 Level 2a	川田玲子	木(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい</p> <p>一年次又は初級スペイン語で身につけたスペイン語の知識をもとに、スペイン語力のさらなる向上を目指す。</p> <p>履修条件・関連する科目等</p> <p>第 I・II 期のスペイン語 1・2・3・4 またはスペイン語 Level 1a・b の授業を終えている、もしくはそれに相応する基礎知識を有すること。</p> <p>授業内容 1. 中級文法 (随時項目を選択) の説明に当てる。</p> <p>2. 日常生活に関する簡単な Lectura や Dialogo を読み、内容に関して質疑応答をしながら、会話練習をおこなう。会話練習は二人あるいは二人以上のグループでおこなう。各テーマに関連する単語および基本的な表現・よく使う表現はその都度紹介する。なお、毎回のテーマは初回講義に指示することとする。その他、受講者から何らかの要望があればできる限り対処していきたい。</p> <p>成績評価方法 出席、授業への積極的な参加など総合的に評価する。</p> <p>教科書 必要資料を配付する。</p> <p>参考書 寿里順平著『スペイン語の表現』東洋書店、寿里順平著『応用スペイン語文法』東洋書店、高橋覚二著『スペイン語表現ハンドブック』白水社、高橋覚二著『基礎スペイン語便覧』評論社、宮本博司著『スペイン語分類単語集』大学書林、山田義郎監修『中級スペイン語文法』白水社</p> <p>注意事項 毎回西和辞典を持参すること。</p>
朝鮮・ 韓国語 Level 1a	洪 順 愛	金(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい</p> <p>新たに朝鮮・韓国語を習う学生ばかりでなく今一度基礎からやり直したい学生も対象とする、朝鮮・韓国語の基礎を学ぶための科目である。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
朝鮮・韓国語 Level 1a	洪 順 愛	金(3)	20	<p>バランスよく朝鮮・韓国語を学べるよう、基礎文法の学習だけではなく日常会話の練習や平易な文章の講読も行なう。併せて、文化・風俗・歴史・社会事情など背景の知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一步とする。目標は「朝鮮・韓国語に触れる」である。</p> <p>授業内容 この授業では次のような能力を養成する。 書記法…ハングル（朝鮮・韓国文字）の構成を理解し、確実にかつ美しく書けるようにする。発音…韓国語の母音と子音を正しく発音し聞き分けられるようにする。特に、日本語にはない終声（バッチム）や平音・濃音・激音の区別などに慣れるように練習する。また、朝鮮・韓国語リズムやイントネーションで文章を発話できるようにする。 ハングルを正しく読むための音韻規則のうち連音化、有声化、鼻音化など基本的なものを着実にマスターする。</p> <p>文 法…初歩的文法を学習する。 学習する主な文法事項は次の通りである。 ・用言の種類による文種（指定詞文・存在詞文・形容詞文・動詞文） ・機能別の文種（平叙文・疑問文・命令文・勧誘文・感嘆文） ・否定文（長い否定と短い否定） ・数詞（漢数詞・固有数詞） ・基本的な助詞（「は」「が」「を」「も」「に」「で」「から」「まで」「と」などに相当するもの） ・文体（あらたまった丁寧体・くだけた丁寧体） ただし、機能別の文種のうち命令文、勧誘文、感嘆文、文体のうちくだけた丁寧体については、必要に応じて簡単に習う程度にとどめる。これらについて詳しくは朝鮮・韓国語 Level 1b で学習する。</p> <p>口頭表現力…日常よく用いられる典型的な挨拶表現などを適切に使えるようにする。</p> <p>成績評価方法 出欠状況、小テスト及び期末試験の成績により総合的に評価する。</p> <p>教科書 自家版教材（教室で配布する） 参考書 必要なものは授業中に指示する。</p>
朝鮮・韓国語 Level 2a	鄭 芝 淑	火(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい 朝鮮・韓国語の初級文法をすでに習得した学生を対象とし「習う朝鮮・韓国語から使う朝鮮・韓国語」を指向する科目である。さらに高度な文法的知識を得ると同時に、生の朝鮮・韓国語に実践的に対応できるような運用能力を養成する。したがって、口頭表現力、聴解力を養成するための授業ではできるだけ朝鮮・韓国語を用いる。</p> <p>また、言語文化 I あるいは朝鮮・韓国語 Level 1 に引き続き、さらに朝鮮・韓国語世界の理解を深める。目標は「朝鮮・韓国語を活かす」である。</p> <p>履修条件・関連する科目等 言語文化 I あるいは朝鮮・韓国語 Level 1 の履修者を対象とするが、相応の力があればこれらを履修していなくてもかまわない。ただし、受講申請時に担当教員に相談すること。</p> <p>授業内容 この授業では朝鮮・韓国語 Level 1 あるいは言文 I の学習を通じて得た文法的知識に基づく口頭表現力および聴解力の養成を目指す。授業はできるだけ韓国語を用いて行い、「習うより慣れよ」の原則に従って学習する。発音や文法にこだわらずに、言いたいことを現在の能力を駆使して表現する姿勢と能力を養う。対話の相手が誰であるかに応じた異なる文体の表現をできるようにする。</p> <p>学習事項は、次のような表現形式である。（ただし、順不同。時間の都合により項目の出し入れもある）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疑問…知りたいことを相手に尋ね、またそれに答えるための種々の表現形式を学習する。疑問形式は対話において最も重要な役割を果たし、ヴァリエーションも最も豊富であるので、特に重点を置いて練習する。 2) 否定…陳述を打ち消すための表現形式を学習する。 3) 感嘆…感情を込めて表現するための形式を学習する。 4) 依頼・指示・禁止…相手に何かをさせよう、あるいはほしくないようにするための表現形式を学習する。 5) 願望…自分がやりたいことを相手に伝える、あるいは相手の願望を尋

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授 業 内 容
朝鮮・韓国語 Level 2a	鄭 芝 淑	火(4)	20	<p>ねるための表現を学ぶ。</p> <p>6) 勧誘・提案…相手と共同して何かをしようというときに用いる表現を学習する。</p> <p>7) 意志・予定…意思や予定を表す種々の表現に習熟する。</p> <p>8) 推量・推測…出来事を推し量るときの表現形式を学習する。</p> <p>9) 引用・伝聞…他人の言説を別人に伝えるときの表現形式を学ぶ。</p> <p>10) 可能・不可能…能力の有無、許可のあるなしを表す表現を学習する。</p> <p>成績評価方法 出席状況、平常点、期末試験の成績により総合的に評価する。ただし、期末試験は韓国語による面接試験とし、その総合評価に占める割合は6割程度とする。</p> <p>教科書 プリント教材。</p> <p>参考書 必要な物は授業で指示する。</p> <p>注意事項 日韓辞典を必ず用意すること。</p>
古典ギリシア語 Level 1a	有川 貴 太 郎	火(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい</p> <p>古典ギリシア語は一見、文法が複雑膨大でわれわれの接近を拒んでいるかにもえます。しかしどの古い言語でもそうですが、当時の日常語が基礎にあります。この授業は古典ギリシア語を、なるべく現代語のように学んで修得することをめざしています。ゆっくりと進んでいけばゆくゆくは、原典を読むことも可能になると思います。</p> <p>私たちの周りの欧米系の日常語には、ギリシア語に由来するものが意外に多く見られます。例えばパソコン関連だけでも「ディスク」「アイコン」等々。この例からもわかるように、ギリシア語は欧米文化の基底にあると言ってもよい言語の一つです。</p> <p>履修条件・関連する科目等</p> <p>とくにありません。すこしでも興味のある人は、自由に参加してください。</p> <p>授業内容 黒海から積荷をのせた船が今アテネの港ピレウスに入ろうとしている。遠くには女神アテネ像が燦然と輝くアクロポリスの丘も望まれる。その船上のシーンからこの教材は始まります。「こちらにきてごらん、アクロポリスが見えるよ」。</p> <p>イギリスのギリシア語教育者たちの編集になるこの教材は、古典作品を巧みにアレンジして作られています。私たちはソクラテスの生きた時代のアテネにタイムスリップして、ギリシア語の世界に導かれ、そこで話される「生きた言葉」としてのギリシア語を学ぶことができます。</p> <p>まずアルファベット（ギリシア語のはじめの文字アルファ、ベータからきた語）の文字に慣れましょう。その発音と書き方から始めて、やさしい対話とナレーションからなる教材にそって、言葉の基礎を学んでいきます。教材の一部にはテープもあります。これに耳を傾けてなるべく多く音読練習をします。</p> <p>文法としては、冠詞、名詞、動詞を中心に、多くの変化を学ばなくてはなりません。体系的にかつ精密にゆっくりと学んでいきます。</p> <p>成績評価方法 平常点（日々の練習達成度、提出課題など）と期末テストによって総合的に評価します。</p> <p>教科書 1. Reading Greek: Text. (The Joint Association of Classical Teacher's Greek Course) (Cambridge University Press) 2. Reading Greek: Grammar, Vocabulary and Exercises.C.U.P.</p> <p>注意事項 教材はテキスト1冊と副教材（語彙、文法、解説）1冊からなる。副教材のほうは必須。参加者数を確認してから注文する。</p>
ポルトガル語 Level 1a	瀧 藤 千 恵 美	木(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい</p> <p>本授業は、初めてポルトガル語を習う人たちばかりでなく、今一度基礎からやり直したい人たちも対象としており、ブラジルポルトガル語の発音及び基礎的な文法事項を徹底的に学び、今後ポルトガル語の学習を続けていくうえで必要となる基礎力の養成を目的とする。</p> <p>履修条件・関連する科目等</p> <p>特になし。初心者のみならず基礎からもう一度やり直したいという人も受講可能である（院生及び教職員も受講の対象とする）。</p> <p>なお、いずれの場合でも、2期（前期と後期）連続で履修できることが望ましい。</p> <p>授業内容 このポルトガル語 Level 1 の授業は、週一度の授業で一年間かけてポルトガル語の基礎を修得するクラスである（後期も同じ木曜2限の授業</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
ポルトガル 語 Level 1a	瀧藤千恵美	木(4)	20	<p>に接続する)。 そのため、ブラジルポルトガル語の最も基礎的な文法事項を徹底的に学習できるように企画された教材を用い、十分な練習問題を織り混ぜながら無理のないペースで順次ステップアップしていく予定である。また、発音クリニックを行いながら「聞く・話す・読む・書く」という総合的な運用力を付けて基礎的な会話力を強めてゆくとともに、受講者の関心に応じてブラジルの文化や生活習慣の紹介も併せて行ってゆきたい。 授業の展開は次のように予定している。・ アルファベット ・あいさつ ・紹介 ・S E R動詞の活用（直説法現在形）と用法 ・指示詞、所有詞 ・数詞、日付の表現 ・形容詞 ・規則動詞の活用（直説法現在形）</p> <p>成績評価方法 定期試験に加え授業参加を重視し、総合的に判定。 教科書 『ブラジル人による生きたブラジルポルトガル語－基礎をとことん学びたい人のために』兼安シルビア典子著、同学社 参考書 辞書が必要である。ポ日のどの辞書でもかまわないが、これから購入される場合は、動詞の活用を掲載する次の辞書を推薦する：『現代ポルトガル語辞典』池上岑夫他編、白水社。 注意事項 語学の学習は積み重ねの結果であるため、次のステップに進むには既に習ったことの復習が不可欠である。</p>
ポルトガル 語 Level 2a	水戸博之	金(1)	20	<p>本講義の目的およびねらい 本授業は、既に何らかの方法でポルトガル語の基礎を身に付けた人、あるいは学習歴のある人を対象にしている。今年度は、日本語を母語にする教員が担当するので、基礎文法を下記の教科書を用い、性数の一致や動詞の現在変化の復習を行いつつ、「過去時制」「関係代名詞」などへ発展させていく。 初歩から中級への「橋渡し」がこの授業の位置付けである。</p> <p>履修条件・関連する科目等 「ポルトガル語 Level 1a・b」の少なくともいずれかを履修していることがのぞましい。または、それに準ずるポルトガル語の知識を有すること。</p> <p>授業内容 授業は、次の二つの要素から構成することを考えている。 1) 指定教科書による基礎文法の学習。 2) 日本国内で見出されるポルトガル語（掲示物、新聞、放送など）を扱う。 指定の教科書の第25課から第39課までを扱う。 本授業では、様々な学習歴の受講者が集まるのが予想されるが、できるだけ第24課までをあらかじめ一読しておいてほしい。 必要に応じて、前の課に戻り既習事項の復習を行う。 母語話者の協力が得られる場合には、演習に力を入れたい。 以下、各課の文法事項を掲載する。 第25課 主語以外の人称代名詞 第26課 疑問詞について 第27課 muitoの用法：数量形容詞と副詞 第28・29課 完全過去と不完全過去の相違（第12課参照） 第30課 時間の経過を表現する：英語の「現在完了」とポルトガル語の場合。 第31課 再帰動詞について：s eの用法 第32課 否定辞の用法について 第33課 進行形について 第34課 大過去（過去完了）について 第35課 時制の一致について 第36課 比較級：形容詞、副詞 第37課 複合完全過去（現在完了）について 第38・39課 関係代名詞について</p> <p>成績評価方法 出席。課題への取り組み等。 教科書 河野彰『CDブックNHKブラジル・ポルトガル語入門』NHK出版2001年 参考書 辞書が必要である。これから購入される場合は次のものを推薦する</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
ポルトガル語 Level 2a	水戸博之	金(1)	20	：『現代ポルトガル語辞典』池上岑夫他編、白水社。 コミュニケーションボードを参照。 注意事項 教科書は途中から扱うが、前半の部分は読み物としても興味深い内容なので十分に活用してほしい。
ラテン語 Level 1a	水戸博之	金(2)	20	<p>本講義の目的およびねらい ラテン語の習得はかなりの量の語形変化がともなうので、ともすると挫折しがちです（かく申す私も今だに泣いています）。なんとか、変化を記憶する負担を軽減する途はないだろうか。それはラテン語を現代語のように学ぶことかもしれません。ローマ時代にタイムスリップして、当時の日常にふれながら、ラテン語を生きた言葉として学びたいと思います。 今年度は、上級生に配慮し金曜日2時限、午前中の時間帯に開講しました。</p> <p>履修条件・関連する科目等 自由に参加してください。関連する科目としては、有川先生担当の古典ギリシア語 Level 1 です。やはりラテン語とギリシア語二つそろって教養教育の「完成」です。 後期からの受講もがんばれば何とかあります。</p> <p>授業内容 イギリスで作られたこの教材は、われわれが初めて英語を習ったときのように、やさしい日常のシーンから始まります。ヴェスヴィウス山の麓、ポンペイの町に住むある商人の家族。（これは実在した家族で、今でも遺跡をみるができます）「カエキリウスは父です」。母、息子、そして奴隷たち。家の様子、市民たちの日常。時あたかも紀元79年、やがて火山が爆発して…… この教材で上級に進めば、ヴェルギリウスなどの原典も扱われますが、まずはしっかりと基礎固め。「フェスティナー・レンター（ゆっくり急げ）」。ラテン語も日常語だったことを思いながら、自然な発音ができるように練習しましょう。部分的にはテープもあります。 文法は適宜説明します。 今年も、水戸（スペイン語・ポルトガル語学）が担当します。 ほぼ前後期2学期で12課（Stage）から構成される教科書1冊を終了します。前期の進度は、Stage 7を目標にします。 平易な文法によって書かれたラテン語の文章ですが、なかなか興味深い内容です。 文法解説や練習問題に相当する部分は、原則としてすべて授業で扱います。また各 Stage には、ローマの文化や社会がきれいな写真とともに解説されています。時間の関係で、授業中直接言及することはできませんが、やさしい英語で書かれていますので、授業の進度に合わせて読み進んでいってください。</p> <p>成績評価方法 出席とレポートを総合して評価します。 教科書 CAMBRIDGE LATIN COURSE, UNIT I (North American Edition) 参考書 文法書は適宜紹介しますがとくに指定しません（コミュニケーションボード参照）。 辞書は、田中「羅和辞典」（研究社）、または英独仏西語等によるラテン語辞典。 インターネットでも、ラテン語学習に役立つサイトがあります。探索してみましよう。</p> <p>注意事項 基本的には2002年度の有川先生の授業と同内容ですが、担当者が水戸になります。教科書の入手方法については、初回の授業で受講者と相談します。</p>
イタリア語 Level 1a	C. Galisch	水(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい イタリア語の基礎を習得し、イタリア語の文章を読み書き、イタリア語を話せるようにすること。</p> <p>履修条件・関連する科目等 2期（前期と後期）連続で履修することが望ましい。</p> <p>授業内容 イタリア語文法の基礎事項を解説しつつ、簡単な文章を読んだり書いたりすることを学習させる。会話の練習では現代イタリア語でよく使う表現を学び、イタリア語による表現能力の習得に重点を置く。</p> <p>成績評価方法 レポート（イタリア語による文章作成）の採点による。</p> <p>教科書 指定しない。会話の教材のみ必要に応じてプリントを配布する。</p> <p>参考書 自習用に、自分に合ったイタリア語入門テキストとイタリア語辞書を選び入手すること。</p>

授業科目	担当教員	曜日・時限	定員	授業内容
英語文化セミナー	M. C. Weeks	火(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい Our lives in advanced industrial societies today are the product of some remarkable changes, especially since the 1960s. The aim of this seminar is to understand our present lives by looking at, reading about and discussing some of the most important cultural developments over recent decades, not only in English-speaking cultures, but also in other places, including Japan. At the same time, improved English in all areas is of course a primary goal.</p> <p>授業内容 The course will follow a history beginning with the 1960s, but in each seminar we will use our present lives as the central reference point for what should be interesting and useful comparisons and contrasts. For example, is there a relationship between the 1960s counterculture and freeters today? Is otaku culture an effect of individualism or a reaction against social conformity?</p> <p>1 Orientation 2 Work and play in the early 1960s as seen in popular films 3-6 The 1960s revolutions in culture, politics, relationships, education 7-8 The 1970s, fashion, feminism, families and individualistic societies 9-10 Money, macho culture and the end of the Cold War in the 1980s 11-12 Family values and work in the 1990s 13-14 Shopping, speed and work in the new millennium 15 Course review</p> <p>All classes will of course be conducted as seminars, allowing us all to contribute our knowledge, experiences and views to the discussions. Sometimes we will work together as one group. At other times, we will first work in smaller groups. Popular culture such as films, television, music, fashion and art will be used to provide concrete examples of cultural trends. There will sometimes be homework reading, all provided by the teacher, or research to do, whether through books or the internet. There may be changes to meet the needs and interests of students. The teacher will attempt to accommodate the individual learning needs of students, providing feedback and advice.</p> <p>成績評価方法 Participation 30% Report 30% Documentary listening test 15% Final Interview 25%</p> <p>参考書 English-english dictionary 注意事項 English is the language of the classroom. Attendance will be recorded for each lesson.</p>
英語文化セミナー	鈴木 繁 夫	木(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい 私達が英語を書く場合に模倣するのにふさわしいきわめて良質の文体で書かれている英語を速読しつつ、説明文、議論文の作り方を知ってもらいます。あわせて、説明・議論をするための思考パターンも学んでもらいます。わかっているつもりになっている時制、助動詞、基本単語などを重点をあてて、これらにたいする私たちの微妙な誤解を修正します。日本のメディアからは聞こえてこないような、アメリカの草の根運動の声を聞き、私たちがいなくアメリカ像をもう一度考え直してみる。</p> <p>履修条件・関連する科目等 学教育科目履修の手引きにある通り</p> <p>授業内容 テキストは、とりわけ西洋絵画の見方をわかりやすくていねいに教え、かつまた西洋史、神話、キリスト教の重要な点をかいつまんで理解できるようにになっています。授業は、三つのセクションから成り立っています。第一セクションでは、授業前にあらかじめ指定された学生によるテキストの要約、部分的な翻訳をおこないます。第二セクションでは、教師と学生の間での内容理解度をたためす質疑応答、第三セクションでは、テキストを叩き台とし広い視野からの分析を討論の形式でおこないます。学期末までに、ひとつの視覚芸術作品について、授業で取り扱った内容を梃子にしてレポート(2000字程度)を提出してもらいます。</p> <p>なお第一セクションの担当学生は授業日2日前(火曜正午)までに担当箇所の要約をメイリング・リストに流してもらいます。添削した要約(水曜午前8時)をウェブ上で公開し、各個人には講評メールを送ります。一回に進む量は1500語程度で、ヘビー級です。</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 文 化 セ ミ ナ ー	鈴 木 繁 夫	木(3)	20	<p>英語に慣れてもらうために、英語文章をそのまま暗記してもらいます。そのために穴埋め小テスト（クローズド・テスト）と和文英訳テスト（英文和訳ではありません）を毎回おこないます。</p> <p>学期の始めと最後に議論文の模擬テストを行い、読解力がどのくらい養成されたのか、自己判定してもらいます。</p> <p>成績評価方法 要約・発表質疑・議論への参加（50%）、テスト（30%）、レポート（20%）</p> <p>教科書 Susan Woodford, Looking at Pictures</p> <p>注意事項 ウッドフォード、ケンブリッジ西洋美術の流れ（8）／絵画の見方、岩波書店</p> <p>注意事項 ネット接続できるパソコンが必要です。</p>
英 語 文 化 セ ミ ナ ー	長 畑 明 利	金(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい</p> <p>英和翻訳の練習を通して、英語と日本語それぞれの言語についての理解を深める。やや難解な英文を理解する能力を養う。一つの言語で書かれた文章を別の言語の文章に置き換えることの意味について考える。理解できる単語の数を増やす。</p> <p>履修条件・関連する科目等</p> <p>学習への意欲と知的社会的関心。英語リーディングの単位を最低2単位取得していることが望ましい（学部生の場合）。履修条件とはしないが、だいたいTOEICで650点以上取れる人を対象にして授業をする予定。</p> <p>授業内容 英和翻訳のワークショップ。授業のあらまはしは次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者は毎週与えられた課題（25ワード程度の英文2種類を予定）を日本語に翻訳する。それぞれの課題文の担当者をあらかじめ決めておき、担当者は前日（木曜日）の午後1時までに、自分の訳文を電子メールで教員（長畑）まで送る。教員は訳文をチェックし、これをPDFファイルにして全員に送る。 ・授業では、課題文についての解説の後、訳文について検討する（受講者全員が担当者の訳文についてコメントを求められる）。基本的には緻密な英文解釈の授業であり、文法事項、構文、文化的背景等に留意しつつ課題に取り組むことになるが、実技を通して、翻訳行為を客観的に眺めることも試みる。 ・課題文は新聞・雑誌のコラム、論説文、映画のスク립ト、歌の歌詞、短編小説、小説の抜粋、詩などを予定。 ・たまに単語テストなどを行う予定。 ・将来英語を用いて仕事をするを考えている者、留学希望者、大学院進学を考えている者には有益な授業となろう。 <p>成績評価方法 学習への意欲、課題への取り組み、授業時のコメント、小テスト、期末試験などにより、総合的に判断する。</p> <p>教科書 オンラインの文章、またはプリントを使用する。</p> <p>参考書 河野一郎『翻訳のおきて』（DHC）、村上春樹・柴田元幸『翻訳夜話』（文春新書）、中村保男『英和翻訳の原理・技法』（日外アソシエーツ）など。その他必要があれば、授業中に、またHPでも紹介する予定。</p> <p>注意事項 実力を付けたい人のためのクラス。欠席3回で単位放棄とみなす。私語、ケータイ、睡眠禁止。ここに記載されている授業内容を後に修正することがある。下に示した授業のHPで最新の情報を確認すること。</p>
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	外 池 俊 幸	月(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい</p> <p>英語で書かれた論説文をいくつか読み、それらをうまくいかして、言い換えると、まねて英語で文章を書くことを学びます。英語の文章を読む場合、今までは、文章の内容を理解するのがほとんど唯一の目的だったと思います。しかし、自分が英語を書く場合に使えないかという観点を持って英語の文章を読むことが重要で、それを具体的にを行います。</p> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 英語で何かを論じている文章が、どういう構造を持っているか、議論がどう展開されているかを、具体的な記事を読みながら学ぶ。 2 また、文章を繋ぐ表現、何かを論じる時によく使われる表現などを具体例から集める。 3 自分で何も参照しないで、一から英語の文章を書くということはこの授業では行わない。 4 いくつか読んだものを参照しながら、いい意味でまねをしながら、英語の文章を書いてみる。

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	外 池 俊 幸	月(3)	20	<p>5 英語に限らないことですが、手直しをすることが非常に重要です。受講している人の書いたものをみんなで、こうの方がよくなるんじゃないか、こういうふうな表現をした方が、言いたいことが適切に表現できるのではないかなど、話し合います。</p> <p>6 英語は、他の言語と違って、学習者向けの英英辞典でいいのがいくつも出ています。その中で、コリンズ英英辞典（改訂第4版）を使うことにします。英語を書く上でも、話す場合にも、役に立つ情報が満載なので、それを今後も自分で活用していけるようにしたいと思います。</p> <p>成績評価方法 出席重。期末（100点）、課題（20－50点）、各60%以上。</p> <p>参考書 Michael Swan (2005) Practical English Usage. Oxford University Press</p> <p>注意事項 コウビルド英英辞典（改訂第4版CD-ROM付き：付いてないのもあるので注意！）を購入し、毎回授業の時に持ってきて下さい。Advanced Learner's版です。違うのがあるので注意。</p>
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	滝 沢 直 宏	火(1)	20	<p>本講義の目的およびねらい 全学教育棟サブラボBを使い、受講生各自が選んだ英文の多読と精読を平行的に行いつつ、電子化された大規模な英語の資料（1億語から成る現代英国英語のコーパス）を利用して、英語表現力を向上させることを目的とする。その際、文法やコロケーション（語と語の慣習的結合）に十分な注意を促す。</p> <p>授業内容 各自、自らが選んだ英語の雑誌・新聞などを定期的に購読し、「自分では辞書を引かなくても意味が分かるが、なかなか自分から使うことはできない」表現で、なお且つ「真似てみたいと思うような」表現を数多く収集し、それを基にして、表現力の向上を図る。</p> <p>まず、初回において、（1）どの程度の難易度の英文を選択すべきか、どのような雑誌・新聞などを読むべきかに関して解説する。（2）利用すべき英英辞典、英和辞典の紹介、（3）コーパスとは「電子化された大規模な英語の資料」である。名古屋大学では1億語から成る現代英国英語のコーパス（British National Corpus）を利用できる環境が整っているため、そのコーパスの利用方法に関して簡単に紹介する。（但し、マニュアル（英文）がオンラインで読めるようになっているので、詳細は各自で学ぶことになる。）（4）英語の表現力を伸ばすにあたって、どのような英語表現に注目すべきかを具体的に解説する。</p> <p>以上のことを前提にして、第3週目以降、毎週、各自が選んだ表現を事前に電子メールで提出して貰う。授業では、その表現のどこが有益であるかを何人かに発表してもらい、皆で議論する。また、そのようにして収集された有益な表現が実際にどのように使われているかを、コーパスを利用して調査し、表現力の向上を図る。その際、コロケーション（語と語の慣習的結合）にも十分な注意を促す。</p> <p>成績評価方法 宿題（第3週以降）、レポート（学期末）</p> <p>教科書 各自、購読する雑誌、新聞などを入手すること（wwwからコピーしても構わない）。詳細は初回に指示する。</p> <p>参考書 授業で指示する。</p> <p>注意事項 英英辞典を必ず一冊は用意し、頻繁に引くこと。コンピュータを多用する。宿題は、電子メールで提出するので、電子メールが使えない人は受講不可。</p>
英 語 表 現 セ ミ ナ ー	木 下 徹	火(4)	20	<p>本講義の目的およびねらい 本授業はパラグラフを中心に、エッセイにつながるライティングの基礎力養成を目的としている。パラグラフのタイプとその構成の原理、さらには、パラグラフの発展型としてのエッセイの組み立て方を理解することで、究極的には、4技能全てに共通の英語のディスコースの基本を習得することをねらいとする。</p> <p>履修条件・関連する科目等 パソコンを使用したライティングの提出課題があるので、ブラインドタッチでパソコンのローマ字入力ができることが望ましい。</p> <p>授業内容 本授業の内容としては、学期の前半はパラグラフの基礎的な知識の確認からはじめて、英語の単語、文、パラグラフ、エッセイの関係を理解する。後半では、パラグラフの7つの基本タイプを扱う。また、それぞれの章に付属する練習問題を通して、そのタイプのパラグラフを拡大したエッセイとの関係も理解することを目指す。</p>

授業科目	担当教員	曜日・ 時限	定員	授 業 内 容
英語表現 セミナー	木下 徹	火(4)	20	<p>週ごとの授業では、大体、次のような事柄を扱う。ただし、実際の順序は必ずしもこの順というわけではない。</p> <p>パラグラフイントロダクション トピックセンテンスの定義と目的 よいパラグラフの条件とは何かを考える。 文と文のつながり（リンクワード）とは何か 文と文のつながり（リンクワード）の種類と働き パラグラフからエッセイへ：発展のさせ方を考える。 パラグラフタイプ 記述／叙述タイプ パラグラフタイプ 物語 パラグラフタイプ 原因と結果 パラグラフタイプ 比較と対照 パラグラフタイプ 分類と分析 パラグラフタイプ 問題と解決</p> <p>なお、適宜、その週の内容に関連するライティングの課題を課し、授業中にピアレビューを行い、それに基づく修正を経て、翌週に提出する。</p> <p>成績評価方法 平常のライティング提出課題、期末試験などを総合して判断する。</p> <p>教科書 Nishimura, K. et al. (1998), Paragraph Writing: Based on Good English Logic, EIHOSHA 参考書 連語辞典、活用辞典など。</p> <p>注意事項 かなり頻繁に英語によるライティング課題を課して、その提出を求めるので、電子メールのチェックの仕方、ホームページへのアクセスの方法等は各自で習熟していること。また、担当者からの電子メール、指定されたHP等の定期的チェックを怠らないこと。</p>
英語表現 セミナー	杉浦正利	水(3)	20	<p>本講義の目的およびねらい 英語でわかりやすい文章が書けるように文章構成法を習得することを目的とする。 和文英訳ではなく、自分の意見を、事実に基づき合理的に英語で論述することができるようにする。 インターネットを使った英語での情報発信や、将来、専門論文を英語で書く時に、指針となる英語文章構成法の根本原理を学んでもらいたい。</p> <p>授業内容 五百語から千語程度の「エッセイ」（小論文）を実際に書くことを通して、いかにわかりやすい文章を書くかということ学ぶ。エッセイはコンピューターを使って書き、インターネット上で閲覧できるようにする。いわゆるホームページの作成に使われるHTMLを使い、英語の文章に構造を持たせる方法を学ぶ。</p> <p>具体的には以下の項目を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文章を書くとはどういうことか 2) 構造と言語表現化 3) パラグラフの構造 4) 論文（エッセイ）の構造 5) 文章構成法の基本パターン 6) 構造をあらわす表現 7) HTMLと文章構造 8) アウトラインの書き方 9) 文章化の方法 10) 推敲のポイント <p>毎回、授業の初めに英語論文でよく使われる表現の小テストを行う。各授業では、学習項目の解説と実際の英語文章作成演習を行う。</p> <p>この授業を受けることで、だれでもわかりやすい文章を書くコツがわかるようになる。また、将来、英語で専門論文を書く人にとってもその基礎を学ぶことができる。</p> <p>成績評価方法 出席、平常点、期末試験の三つの観点より総合的に評価する。</p> <p>教科書 藤本滋之『やさしく書ける英語論文』松柏社 参考書 名古屋大学言語文化部『インターネットと英語学習』開文社出版 注意事項 コンピューターを使うが必要な操作は授業中に教えるので、コンピューターの操作に慣れていなくても心配ない。</p>